

会 議 録

- 1 名 称 平成23年度第3回北九州市立美術館協議会
- 2 議 事
 - (1) 議題1 平成24年度北九州市立美術館運営方針について
 - (2) 議題2 北九州市立美術館運営評価について
 - (3) 報告1 北九州市立美術館の市長部局への移管について
 - (4) 報告2 美術館「市民ギャラリー」のコムシティへの入居について
- 3 開催日時 平成24年3月2日(金) 14時00分 ~16時00分
- 4 開催場所 北九州市立美術館 本館B1階 講堂
- 5 出席した者の氏名
 - (委員)
吉武弘喜(九州造形短期大学学長、九州産業大学美術館館長)、羽田野隆士(北九州商工会議所専務理事)、山梨俊夫(国立国際美術館館長)、川浪千鶴(高知県立美術館企画監兼学芸課長)、大島まな(九州女子短期大学初等教育科准教授)、谷 美紀(ドンナ・マンマ編集長)、関野 弘(毎日新聞西部本社事業部長)、永津美裕(北九州市立大学大学院教授)、飯盛康子(北九州美術家連盟運営委員)、松榮 聡(福岡県立八幡中央高等学校教諭)
 - (事務局)
北九州市立美術館長 西村勇晴 美術館副館長 石本信義
美術館普及課長 中尾成孝 美術館普及係長 恵良修次
美術館学芸係長 那須孝幸 美術館分館長 小田口司
美術館普及係 福富春香 美術館学芸課 重松知美
美術館学芸課 落合朋子
- 6 議事の概要
平成24年度北九州市立美術館運営方針について及び北九州市立美術館運営評価について意見をいただいた。

7 経 過

会 長 それでは、議事次第にそって議事を進めたいと思います。最初に議題1の平成24年度北九州市立美術館運営方針について、まず事務局から説明をお願いいたします。

事務局 《「議事1 平成24年度北九州市立美術館運営方針について」説明》

会 長 ただいまの説明に対して、ご質問はありませんか。

委 員 「特色のあるコレクションの形成」では、平成24年度は柳瀬正夢、青柳喜兵衛、浜田知明に重点を置くと思いますが、今後、重点作家として継続して集めたいものと理解してよろしいのでしょうか、それとも、例えば、この年度は、ある程度の点数を集中的に集めるという意味でしょうか。

事務局 3名の作家の名前があがっていますが、実際は、この3名だけに絞ることは難しく、タイミングよく作品が見つかるか、あるいは所有者にご協力いただけるかななどの問題があります。

当面、柳瀬正夢は平成25年度に展覧会を計画しており、浜田知明は作品を預かっている状況にありますので、特に平成24年度の目標として名前をあげています。したがって、文字通り「当面の重点目標」としてこの3名をあげています。

委 員 企画展の計画等を勘案し、数年越しの長い計画をふまえて収集されるとよろしいのではと思います。

委 員 美術館運営サポーターというのは高校生・大学生を対象として年1回募集して、20名程度を育成するということですが、美術ボランティアとの違いとか、将来美術ボランティアにつなげていくのか、境目がはっきり認識できないので教えていただきたいです。

事務局 当館ではボランティア組織として、発足した順に、美術ボランティア、美術ジュニアボランティア、美術館運営サポーターという制度があります。

美術ボランティアは、開館に合わせて日本初の美術ボランティアとして設立されたもので、活動内容は、主に作品の資料整理と来館者への作品解説です。

資料整理、作品解説には美術に関する専門知識を要するため、毎

年募集するものでなく、応募された方は2年間の研修期間を経て、最後までやりとげた方のみがボランティアに登録されるということを伝統的に行なっています。

次の美術ジュニアボランティアは、美術ボランティアの活動を小中学生に広げるために組織されたものです。月1回活動し、収蔵作品を学んで展覧会の作品解説をしたり、美術館事業の理解を深めてもらい学校に帰って皆に広めてもらっています。

ジュニアボランティアに関しては、これまでの登録制から随時募集制への切り替えを計画しており、その試みとして年度内にこれまでの活動と違う要素を入れた内容で実施を考えています。

美術館運営サポーターは、言い換えれば高校・大学生を対象にしたボランティア制度ですが、いま説明した2つのボランティア制度とはコンセプトが異なっています。

美術ボランティアと美術ジュニアボランティアは、作品の理解を深め来館者に対する作品の解説を行うなど、美術に関して特に学芸部分の内容を重視していますが、運営サポーターは、美術館全体の運営について、サポートしていただける高校生・大学生を募集している点が大きく違います。美術館の企画展に限らず、さまざまな美術館のイベントなどの事業に参加し、受付や案内・誘導等、また、広報用のちらしの発送等の館運営に必要な仕事のサポートをしてもらっています。

委員 「育成・活動支援」のカテゴリーに美術ボランティアと美術ジュニアボランティアを、「市民参画」というカテゴリーに美術館運営サポーターを振り分けています。幅広く美術館の運営に協力している市民活動を分けることは、手の足りない所をお手伝いいただく人、それに勉強の機会もある人などと、美術館が「この部分だけ」と市民力を限定しているようで、市民との距離感を感じます。

いろいろな立場、年代やモチベーションの方と美術館が共に勉強しながら活動し、その活動が美術館の運営にも役立つためには、ひとつのカテゴリーにまとめられたほうが、前向きなこれからの美術館像が作られるように思います。

事務局 よくわかりました。2つのカテゴリーに分けているのは、以前からの枠組みにとらわれすぎていたと思います。ともに、大きな意味で、美術館の運営に市民参画を促進していくという中に包括されていくと思いますので、ひとくくりにした枠組みにしたいと思います。

会長 次の議題に関連するのですが、北九州市立美術館運営評価の中に、

友の会が入っていないが、友の会と協力して、会員を増やす取り組みをしなければと思うのです。もう少し重視する必要があるのではと思います。

事務局 友の会は、美術館から独立した任意団体なので、美術館の運営評価の中に取り込むのは適切ではないと考えています。友の会の存在は私どもにとって心強い存在であり、軽視しているわけではありません。

委員 北九州市立美術館では中学生まで無料と思いますが、高校生・大学生は一般料金に近いものがあります。県立美術館では毎週土曜日は高校生が無料という制度があると思います。

美術館での大学生の割引についても、他県で美術系の大学生の割引というのを見たことがありますので、そういうことも検討にいられていただけたらと思います。

事務局 制度上は、小中学生は無料ではなく有料になっています。ただし、小中学生は「たんけんパスポート」や「美術鑑賞教室」等の事業によって無料で利用できる機会が多いということです。高校生、大学生は割安の学生料金で利用いただいています。

委員 美術鑑賞教室の開催のことですが、現在どれくらいの小学校にその機会があるのでしょうか。

事務局 小学校については、市内の全小学校に連絡しております。基本的に申し込みのあった全ての小学校を受け入れています。

委員 子供たちが美術館に行ったときの衝撃や感動の経験は、きっと大人になったときに美術に対する高い関心へと繋がると思います。

今現在、美術鑑賞教室の参加校が固定されていると聞かれますが、なるべく多くの小学校に、来ていただけるようにしてください。

事務局 これからも学校に参加案内を行う際に、そのことを十分留意して、検討していただけるようお願いしたいと思います。

委員 CCA 北九州とは今後もずっと連携するのでしょうか。他の文化施設との連携も考えていますか。

事務局 市内の文化施設との連携については、こちら側の意向もあります

が相手との調整が必要です。CCA 北九州との共同企画に関しては、来年が CCA 北九州の開設15周年ということもあり、それを記念した、共同企画展を開催するものです。

また、市内には博物館等の文化施設があり、これから連携しなければならないと考えていますが、まだ明確な提示ができるまでの企画はありません。

委員 入場者数の減少対策が課題であるとありますが、来年度の事業計画のなかで「ここは工夫しました」と市民にアピールする点はどこでしょうか。

事務局 美術館の利用者が減少しているという課題の対応策として、魅力的な企画展の開催と広報・PRをうまく実施すること、そして、教育普及事業で、子ども達にたくさん参加していただくことが大きな柱になると思います。

まず、展覧会では、岸田劉生展、いわさきちひろ展など知名度の高い企画展を開催します。

展覧会広報の充実・強化では、市民向けの広報をすみずみまできめ細かく実施するとともに、広い範囲からの集客のために特にテレビスポットCMに力をいれたいと思います。

また、公共交通機関とも連携し、戸畑駅から美術館まで臨時バスの運行や、主要駅やバスの中に多くのポスターやチラシを掲示することで、今まで以上のPR効果を期待したいと思っています。

コレクション展については、テーマ性を明確にして内容を判りやすく伝えるポスターを作成し、PRを強化します。

子どもたちの教育普及事業では、たんけんパスポートの利用率が非常に低いため、保護者むけのPR チラシを作るほか、美術ジュニアボランティアでも、ひろく親子で参加できるような事業の枠組みを作って、親子での参加者を増やしていきます。

委員 展覧会について、美術作品の収集方針のような「展覧会開催方針」を決めて、その中に、コレクション展と自主企画展のそれぞれで、どんな展覧会を実施するのか書いてあると、わかりやすいのではないですか。

すぐに対応してほしいというのではなく、感想として述べさせていただきました。

会長 いただいた意見を参考にして、美術館のほうで検討し、できる範囲で修正等していただければと思います。

では、運営方針については基本的にはよろしいでしょうか。議題1は、これで協議を終了いたします。

会 長 次に議題2の北九州市立美術館運営評価について、まず事務局から説明をお願いいたします。

事務局 《「北九州市立美術館運営評価について」説明》

会 長 それでは、今の説明や資料について質問・意見をいただきたいと思えます。

委 員 広報・情報発信の項目の中に、「研究内容を図録、冊子等にまとめて情報提供する。」とありますが、図録等は調査研究して作成するものであり、調査研究・展示の項目の中に入るものと思えます。

発表媒体を問わず、論文を1本以上公開するとありますが、学芸員1人につきということでしょうか。

自主企画展を少なくとも1回開催するとありますが、24年度の展覧会予定は決まっているので、開催回数を具体的に書いたほうがよいと思えます。

運営方針の施策目標「美術館施設の適切な管理によるアメニティの向上」は、運営評価項目に対象になっていませんが、これは大事なことなので、添え書きみたいな扱いにすれば良いのではないのでしょうか。また、友の会も大事な要素でしょうから直接の評価対象でなくても、同じように添え書きのようにすれば良いと思えます。

事務局 ご指摘のとおり修正します。添え書きについてはご意見を参考にして工夫できるか検討してみたいと思えます。

また、発表媒体を問わず論文を1本以上公開することは、「1人につき」とは記載しておりませんが、努力していきたいと思えます。

会 長 入場者数、たんけんパスポートの利用者数等に数的な目標をあげていますが、「市民参画・連携」についても数値目標があることが望ましいと思えます。

美術ボランティアは2年間の養成期間が必要であり、増やすのが難しければ、かわりに「友の会」の会員を増やしていくことが大切です。

高校生、大学生の運営サポーター、ジュニアボランティアの運営方法では、インターンシップのように、長期的・継続的に美術館にきてもらう制度も参考にさせていただけたらと思えます。

委員 26年度の入場者数、たんけんパスポートなどの数値目標については、現在どれくらい達成できているのか、せめて前年度の実数と比較してみたい。

前年度に達成した数字をもとに、24年度はこのようなことを目標にするという流れが見えたほうが良いと思います。

事務局 例えば、24年度のコレクション展の入場者数目標を4万人とした根拠ですが、26年度の目標は、21年度の入場者数約4万6千人の10パーセント増の5万人に設定しています。23年度の入場者は3万人位で達成率が60%くらいになりそうなので、24年度には目標を高く4万人としました。

副会長 評価をするときに、入場者数は一番大事である。「対前年度比で活性化しましたよ。」と言うと、「何で活性化したのか。」「入場者数が増えました。」「それは企画がよかったから。」「それはどういう企画だったのですか。」と、ものすごくわかりやすくなります。

事務局 入場者数だけで評価することは、行政の立場からは非常にわかりやすいし、予算を執行する立場からも費用対効果の数字としてわかりやすいのですが、数字で表せないもの、例えば、美術館が博物館として大切な市民の財産を管理しながらそれを市民に公開していくということは、入場者数だけでは評価が見えません。

ただし、入場者数を見せないと美術館が使われていないという評価を受けることもあるので、そのバランスを考えて、数字だけが過大に評価されるのではなく、(資料収集・保存、調査研究・展示、教育普及・学習支援、市民参画・連携、広報・情報発信の)5つの評価項目を設定しています。

副会長 確認なのですが、予算があるなら決算があるかと思います。費用対効果の話がありましたが、赤字になるだとか予算は気にしなくてもよい状況ですか。

事務局 事業費は、美術館の収入だけで全てまかなうことは困難ですが、展覧会収入でなるべく多く充当できるように努力しています。

委員 北九州市は福祉政策で入場料を減免していますが、イベントターが集客力のある巡回展を誘致する場合、無料入場者が多い美術館は敬遠されるのではないのでしょうか。

副会長 北九州市のまちおこしの一環として、福岡市に行くのではなく北九州市の美術館に皆で来てもらうという取組みも大切です。そのためには、学校や、市民、産業界などに応援してもらうことが必要であり、「まちおこしとしての美術館」の視点で工夫する必要があります。

会長 美術館の事業全体の費用対効果は、子どもの教育、高齢者の生きがい等を取り込むと難しくなると思います。しかし、個別の新聞社との共催のような事業は、はっきり入場料がいくら入ってくるかわかるわけだし、費用対効果がかなりだせるわけです。

コレクションを利用した展覧会の場合も、所蔵品の購入費用は別なのですが、個別の展覧会の費用対効果はわかる。

入場料収入は少なかったけども、実は子どもがたくさん来ていたなどきちんと説明すればわかってもらえると思います。

そういう意味で、この行政評価はそこまでは求められてないのかもしれませんが、やれるところはこれからやっていかなければならないと思います。

副会長 北九州市にこんな立派な美術館があるのだから、ぜひ予算を増やして皆さんに来てもらうため働きかける必要があります。

福岡市の美術館を調べて、福岡に負けない文化、美術館をつくるためには、予算がいくらかかって、人材はこれだけ必要という発想をしなくてははいけません。そのためには、みんなに応援を求めていくコンセプトが必要です。

会長 議題2の北九州市立美術館運営評価については協議を終わりますが、今後も委員の意見を参考にして進めていただきたいと思います。次に、報告1と2について、まとめて説明をお願いします。

事務局 《報告1「北九州市立美術館の市長部局への移管について」説明》
《報告2「美術館「市民ギャラリー」のコミュニティへの入居について」説明》

委員 市長部局への移管について、何がかわりますか？

事務局 基本的に補助執行というかたちで、教育委員会が設置している施設の管理運営業務を、市長部局の職員が執行するものであり、大きくは変わらないと考えています。

まずは、まちのにぎわいづくりや、たくさんの方に文化施設を使ってもらうために連携を強化するということが、組織改変で期待されるメリットになります。

委員 現場としてのメリットはありますか。予算要求がしやすくなるだとか、具体的に教えてください。

事務局 予算の調整、執行等につきましては、直接に財政担当や市幹部と話すことになり考えが伝わりやすいかもしれません。

一方で、調査研究をしたい学芸員にとっては、さらに子ども達への美術の普及や市民に対して地域に出て美術を広めるという業務などが期待されて、幅広い業務が増えるという可能性があるかもしれません。

副会長 企業人からみると、まちおこしとしての美術館として考えると、市民文化スポーツ局になるということは、いろんな連携がとれて動きやすいのではと感じました。

委員 市長部局になっても、美術館の主体性についてはぜひ意識してもらいたいと思い、あえて質問いたしました。

また、コムシティへの入居についても運営方法はまだ決まっていないとのことですが、既存の美術館の職員の負担増にならないように留意していただきたい。

会長 これで、議事は終わりたいと思います。
本日の議事はこれで終了いたします。委員の皆さんありがとうございました。

8 その他 傍聴者なし

9 問い合わせ先 教育委員会美術館普及課普及係
電話番号 (093) 882-7777